

郷土の歴史を知ろうー

麻

生藩

新

庄

家

市内には各地に文化財や遺跡など、郷土の歴史を感じることが出来る箇所がたくさんあります。今回は江戸時代に麻生地域を治めていた麻生藩、新庄家について特集します。

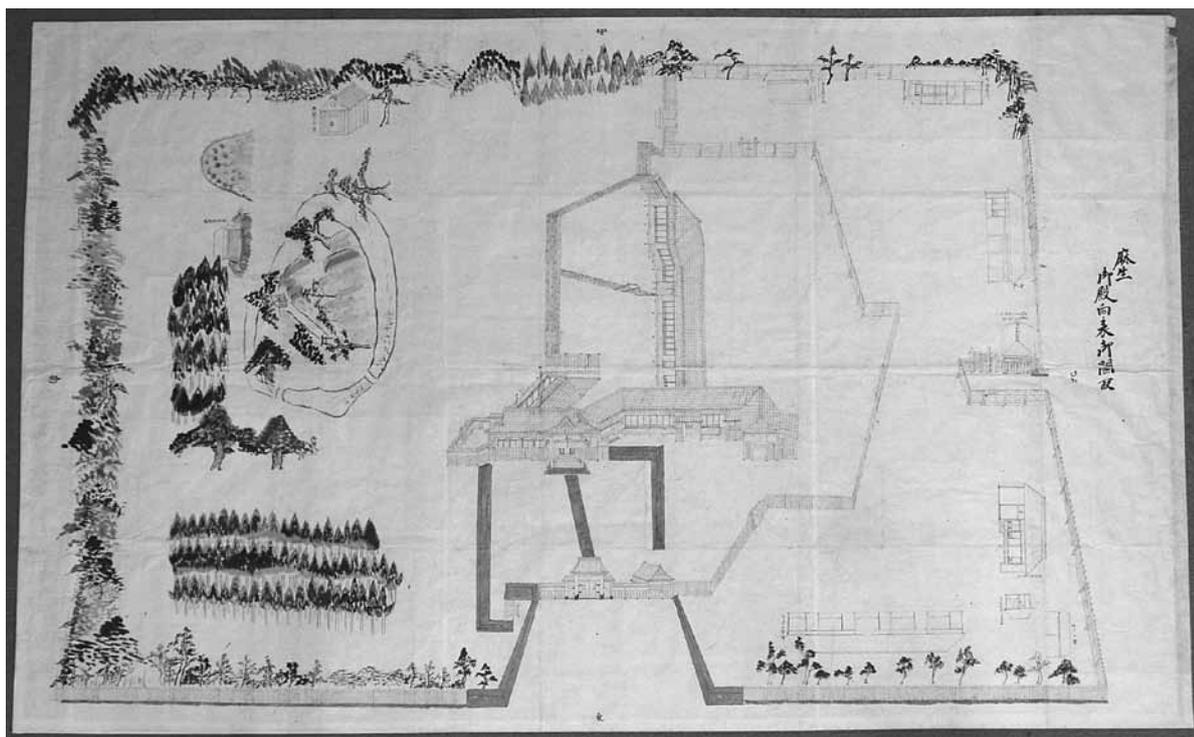
外様大名として立藩

新庄氏はいかにして麻生の地に立藩したのでしょうか。今から400年以上前のこと、慶長9年（1604）、新庄直頼（しんじょうなおより）が常陸国行方・河内・新治・真壁・那珂、下野国芳賀・都賀・河内の八郡内に三万三百石の領地を与えられ、現在の行方市麻生を拠点として麻生藩が成立しました。

新庄氏はもともと、近江国（滋賀県）の大名でした。新庄に居住して、地名を姓としたと言われています。慶長5年の関が原の戦いでは石田三成らの西軍に属し、徳川家康率いる東軍と戦い、敗戦。したがって江戸時代、徳川幕府にとっては外様大名となるわけです。徳川氏に敵対したにもかかわらず、

許されて立藩し、小藩ながらも比較的江戸に近い麻生を本拠地とした理由について、麻生藩新庄氏に詳しく『常陸国麻生藩の研究』（茨城新聞社刊）の著書がある植田敏雄さんにお話を伺いました。『関が原の戦い以前、新庄氏に徳川氏との親交があったからではないかと考えられます。また石田方に付いたのは、豊臣政権下で現在の大阪府高槻市の城主であった新庄氏が、周囲がすべて石田方であったため心ならずも石田方に属した、との徳川家康の判断があったのではないのでしょうか。』

関が原の戦い後、直頼と直定（なおさだ）の父子は助けられ、同郷で当時、今の福島県会津地方の領主であった蒲生秀行（がもうひでゆき）に預けられました。慶長9年正月には罪を許されて、駿府（静岡市）で家康に謁見、さ



麻生御殿向表御間取（行方市指定文化財）

らに江戸において家康の後継者・秀忠にも謁見し、領地を与えられたのです。

なぜ麻生に陣屋を？

新庄氏は領地の中でなぜ、麻生を居所としたのでしょうか？これについては植田さん執筆の麻生町史に詳しく報告されています。

『(前略)新庄氏がなぜ麻生を居所と決めたのか確証はないが、八郡のうち石高も多く領地がまとまっていたのは常陸国行方郡である。それに推定ではあるが、新庄氏の祖先の居所が琵琶湖の東岸、ほぼ中央に位置する近江国坂田郡新庄や、そこから移った朝妻の地(いずれも現在の米原市)であったことから考えて、霞ヶ浦の東岸中央に位置する麻生が近江国の故郷に類似し、しかも水運で江戸との往来が容易であったことから麻生を根拠地と決めたのではなかろうか。

新庄氏が領地支配の拠点とした麻生陣屋の構築は元和5年で、江戸幕府が武家諸法度により新規の城郭構築を厳禁した4年後のことである。このことから新庄氏の領地拝領から陣屋構築までの15年間は、本格的な構築には着手

せず、背後の城跡(麻生城跡)を一時的に使用したのか、或いは麻生地内どこかに仮の城館を設置したのではあるまいか。新庄氏の入封直後は戦国の気風も色濃く、初めて関東入りした新庄氏にとつて、要害の地にある中世城館跡の一時的な使用も考えられよう。そして新領地における本格的な築城の直前に武家諸法度による築城の厳しい制限、禁止令が出され、この規制のもとに麻生陣屋は構築されたものと思われる(後略)とあります。



発掘現場の現地説明会が行われました

発掘調査が行われました

麻生小学校周辺道路において、来年度の小高・行方面校との統廃合による、通学路の道路拡幅工事が行われることとなりました。

それに先立ち、「麻生藩陣屋跡」の発掘調査を行いました。麻生小学校の敷地は全域遺跡として指定されている場所です。今回の調査は、敷地東南の道路建設部分が対象となりました。出土した主な遺物は磁器(椀・皿・仏花瓶・散蓮華)・陶器(水注)・炆器(播鉢)・土器(燈明皿・焼塩壺・瓦・石製品(像)・

金属製品(銭貨・釘・楔・煙管)等です。なかでも3個発見された焼塩壺は、いずれも泉州(大阪)製で、焼塩を製造・貯蔵する際、塩のにがり抜きのために容器ごと窯に入れて加熱精製するもので、東京などの武家屋敷では発見されていませんが、茨城県内では珍しいものだそうです。

10月29日(土)には、発掘現場の現地説明会を開催し、市内外から約40名の方にご参加いただきました。当時の生活ぶりを考えさせられる遺物を前に、参加者の方々は熱心に説明を聞いていました。

麻生藩について研究し、「常陸国麻生藩の研究」(茨城新聞社)の著者である植田さん。社会科教諭として麻生中、麻生高校赴任時代に麻生藩について関心を深め、以後現在に至るまで研究を続けていらっしゃいます。植田さんが研究する以前、麻生藩についての活字の史料はほとんどない状態でした。

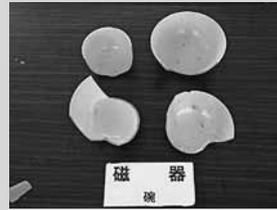


植田敏雄さん

『地元の歴史を少しでもわかるようにしておきたかった。麻生藩について少しでも多くの人に興味をもってもらい、郷土を愛する心が育まれるといいですね。』と話してくれました。

『地元の歴史を少しでもわかるようにしておきたかった。麻生藩について少しでも多くの人に興味をもってもらい、郷土を愛する心が育まれるといいですね。』と話してくれました。

今回の発掘で発見された主な遺物



○利用案内○

開館時間 午前9時～午後4時
開館日 木・金・土・日及び祝祭日
(除く、年末年始)
入館料 無料

今年、かやぶき屋根の全面ふき替えも終了し、往時の麻生藩を感じられる唯一の建造物として、その佇まいを今に残しています。

麻生藩の家老職を務めた畑家の住宅です。現存する主屋は、安政3年(1856)に火災で焼失し、翌安政4年に再建されました。明治23年(1890)福田家の所有となり、平成3年福田家より麻生町に寄贈されました。上層武家住宅の遺構は、県内にも数が少なく貴重なものとなっています。

茨城県指定有形文化財
麻生藩家老屋敷記念館
(旧畑家住宅)